

冒険教育プログラムに参加した大学生の信頼感の変容と要因

田代 晶子 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)
指導教員 林 綾子

キーワード：冒険教育プログラム, 信頼感, 経験要因

1. 序論

生涯, 健康的に生活を営んでいくためには, 人生の各時期において, 他者との信頼関係を築いていくことが必要不可欠である. 信頼感の向上に有効な事例として, 永井ら(2007)は, 自然の中での共同生活や, 課題に取り組み達成する冒険教育プログラムを報告している.

先行研究から冒険教育による信頼感の変容は報告されているが, その要因は考察程度にとどまっておき, 実際に検証されたものは少ない. そのため本研究では, 冒険教育プログラムに参加した大学生の信頼感の変容と要因について明らかにすることを目的とする.

2. 研究方法

【対象者】平成 29 年 9 月 19 日から 24 日に実施された B 大学野外スポーツコース専門実習に参加した 3・4 年次生 34 名を対象とした.

【調査】1) 信頼感の測定には天貝(1995)の「自分への信頼」「他人への信頼」「不信」の 3 因子 24 項目からなる信頼感尺度を用いた.

2) 信頼感に影響を与えた経験の測定には天貝(1999)の「受容経験」「承認経験」「親との親密な関わり経験」「対人的傷付き経験」の 4 因子 43 項目からなる信頼感影響経験項目を用いた.

3) 実習中の経験要因の測定については筆者が独自に作成した「受容経験」「承認経験」「対人的傷付き経験」の 3 因子 6 項目からなるふりかえりシートを用いた.

3. 結果と考察

(1) 信頼感の変容

冒険教育プログラムに参加した大学生の信頼感の変容を明らかにするために時期を要因とする分散分析を行った結果, 「他人への信頼」のみ有意な変化が見られた(表 1). 多重比較を行ったところ, プログラム前後で有意に向上したことが明らかとなった. 非日常という自然環境の中で困難なプログラムを仲間と共に励まし合い, 助け合いながら乗り越えた経験が「他人への信頼」の向上に繋がったと考えられる.

【表 1. 信頼感因子別の分散分析結果】

	事前	事後	一ヶ月後	F 値	
	M(SD)				
自分への信頼	24.93(4.80)	25.45(4.25)	25.90(3.41)	1.153	n.s.
他人への信頼	34.36(6.04)	36.78(5.72)	34.39(4.76)	6.17	**
不信	31.63(6.03)	30.57(5.78)	32.57(6.56)	1.576	n.s.

n=33 **p<0.01

信頼感の個人差が大きかったために, 上位群下位群別に分け時期と群を要因とする分散分析を行った結果, どちらの群も有意に変化しており, 多重比較を行ったところ「自分への信頼」と「他人への信頼」の上位群は, 事前から事後, 事前から 1 か月後において有意に低下していた. 一方で「自分への信頼」と「他人への信頼」の下位群は事前から事後, 事前から 1 か月後に

かけて有意に向上している. 「不信」の上位群は事前から事後, 事前から 1 か月後に有意に低下している. この結果から, 参加者の元々の信頼感によって冒険教育プログラムでの信頼感の変容に違いが見られると考えられる.

(2) 過去の信頼感影響経験

現在の信頼感に影響を及ぼした過去の経験を明らかにするために, 単回帰分析を行った. その結果, 「自分への信頼」「他人への信頼」には「受容経験」「承認経験」「親との親密な関わり経験」が正の影響を及ぼしていることが明らかとなり(自: $B=.35^{***}$, $B=.41^{***}$, $B=.80^{***}$), (他: $B=.44^{***}$, $B=.53^{***}$, $B=.80^{**}$) 「不信」は要因を明らかにすることができなかった.

(3) 実習中の経験による信頼感の変容要因

冒険教育プログラムを通して変容した信頼感に影響を与えた経験要因を検討するため, 実習中の経験要因を用いて単回帰分析を行った. その結果, 信頼感の変容に影響を与えた経験要因として, 「自分への信頼」には「受容経験」が影響を与える傾向にあり($B=.22^+$), 「他人への信頼」には「承認経験」が影響を与える傾向にある($B=.43^+$)ことが明らかとなった. 「自分への信頼」については, 全体での有意な向上が見られなかったことから, 冒険教育プログラムの中で変容するほどの「受容経験」は得られなかったと考えられる. また, 「他人への信頼」が有意に向上したことから, 冒険教育プログラムによって「承認経験」が得られたことにより「他人への信頼」の向上につながったと考えられる.

「不信」の変容に影響を与える経験については, 明らかにすることができなかったため, 「不信」や信頼感の個人の捉え方について理解を深め, 「不信」の変容に影響を与えた経験についての更なる検討が必要である.

4. まとめ

青年期にあまり変化しないことが示唆されている信頼感に変容したことから, 冒険教育プログラムの信頼感に対する影響力が大きいことがわかる. また, これまでに築かれてきた信頼感によって, プログラムによる信頼感の獲得に差が生じることが明らかになった. さらに信頼感に影響を与える冒険教育プログラム内の要因が明らかになった. そこで, 現時点での信頼感を知り, 参加者同士の関わりやプログラムでのどういった関わりを大切にしていけるか考えることで, 冒険教育プログラムによる信頼感向上へのより効果的な展開が可能となると考えられる.

引用文献

- 1) 天貝由美子 (1995) 高校生の自我同一性に及ぼす信頼感の影響. *Japanese Journal of Education Psychology*, 43 : 364-371.
- 2) 天貝由美子 (1999) 一般高校生と非行少年の信頼感に影響を及ぼす経験要因. *Japanese Journal of Education Psychology*, 47 : 229-238.
- 3) 永井 将史・渡邊 仁 (2007) キャンプ経験が青年期の信頼感に及ぼす影響. 国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要, 7:53-61.